

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

1 日 時	令和5年7月19日（水） 午後1時30分～午後4時30分
2 場 所	教育委員会室
3 議 題	(1) 令和5年度における点検・評価の対象及び方法について (2) 各施策についての点検・評価 (3) 今後のスケジュールについて (4) その他
4 資 料	次第、さいたま市教育行政点検評価委員会設置要綱、座席表、出席者名簿、点検評価委員会審査日程、令和5年度教育委員会の点検・評価報告書（案）、令和4年度教育行政方針
5 出 席 者	別紙出席者名簿のとおり
6 欠 席 者	0人
7 議 事	<p><開 会> 13時30分開会</p> <p>※会議を非公開とはしないことを決定した。傍聴者なし。</p> <p>議題（1）令和5年度における点検・評価の対象及び方法について 事務局から、令和5年度における点検・評価の対象及び方法について説明後、各委員へ意見を求めた。 ※意見なし 事務局の原案のとおり、評価の対象は「令和4年度教育行政方針」に記載された60事業とする。 評価の方法は、「令和5年度教育委員会の点検・評価報告書（案）」における教育委員会の自己点検・評価の記載に沿って各所管課から説明を行い、それに対して委員が意見を述べる、という方法で了承された。</p> <p>議題（2）各施策についての点検・評価 令和5年度教育委員会の点検・評価報告書「Ⅲ 点検・評価の結果（令和4年度事業対象）」において、「2 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成」の11事業、「3 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成」の13事業、「5 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実」の4事業、「6 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備」の12事業について、各所管課から説明を行い、各委員へ意見を求めた。</p> <p>【説明】 [Ⅲ 点検・評価の結果（令和4年度事業対象）] <2 12年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成> (1) 読解力向上教育のための Plan The Next</p>

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

- (2) 学校訪問を通じた授業力の向上
- (3) さいたま市学習状況調査等の結果を活用した教育支援の充実
- (4) 市立高等学校「特色ある学校づくり」
- (5) 館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動の推進
- (6) プログラミング教育の推進
- (7) 保育所・幼稚園等・小学校の連携の推進
- (8) 「さいたま市小・中一貫教育」による教育の質の向上
- (9) 中・高の連続性をもった教育の推進
- (10) 子ども読書活動の推進
- (11) 児童生徒一人ひとりへきめ細かな支援を行うスクールアシスタントの配置

◆教育委員会の自己評価

< 3 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成 >

- (1) 日本一の英語教育「グローバル・スタディ」の更なる推進
- (2) 国際バカロレアの教育によるグローバル人材の育成
- (3) これからのグローバル社会における国際教育の推進
- (4) 一人ひとりの教育的ニーズに応じる特別支援教育の推進
- (5) 学校・家庭・地域と連携した道徳教育の推進
- (6) 不登校等児童生徒への支援の充実
- (7) 心のサポート体制の充実
- (8) 子どもたちが主体となって取り組むいじめ防止対策の推進
- (9) 学校・家庭・地域が連携した食育の充実
- (10) キャリア教育の推進
- (11) 人権教育の推進
- (12) 子どもたちの体力向上の推進
- (13) 小・中・高等学校の学びの連続性を意識した主権者教育の推進

< 5 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実 >

- (1) 学校と地域が連携・協働するコミュニティ・スクールの全校実施
- (2) コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的推進
- (3) チャレンジスクールを通じた学びの輪・地域の輪づくりの充実
- (4) 学校安全ネットワークの推進

◆教育委員会の自己評価

< 6 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備 >

- (1) 持続可能で質の高い教育環境整備の推進
- (2) 水泳学習の充実を図る民間委託化の推進
- (3) 学校における働き方改革の推進
- (4) 小学校35人学級の計画的な整備
- (5) 人づくり、人材確保の推進
- (6) 新しい時代にふさわしい部活動の在り方の推進

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

- (7) 教員の資質能力の向上
- (8) 実効的で持続的な学校安全体制の充実
- (9) 学校のリフレッシュ計画の推進
- (10) 学校体育館への空調機設置の推進
- (11) 学校トイレの洋式化等の推進
- (12) 公民連携した奨学金制度の拡充

◆教育委員会の自己評価

【主な意見及び質疑】

< 2 1 2年間の学びの連続性を生かした「真の学力」の育成 >

2 (2) 学校訪問を通じた授業力の向上

(平澤委員長)

- ・学校訪問後、学校からのフィードバック等を基に、具体的にどのような指導が効果的であったかを検証し、今後の学校訪問に生かせるとよい。

2 (3) さいたま市学習状況調査等の結果を活用した教育支援の充実

(郡島委員)

- ・結果を活用してどのようなことをされたのか

(教育研究所)

- ・各学校が自校の調査結果を活用して、子供たちの学力向上のためにどのような活動をするかという目標と、その活動内容について設定する。それを学力向上ポートフォリオという様式の紙にまとめ、教育委員会の提出と、自校のホームページに掲載する。また、教育委員会では、各校の結果を分析し、学力向上カウンセリング訪問という学校訪問を行っている。

(平澤委員長)

- ・児童生徒質問紙調査における、自尊意識に関する質問項目で、数値が上がってきていることについて、どのような部分が生かされて、意識が変わっているかなど、具体的な検証をしてもらいたい。

2 (5) 館岩少年自然の家を活動拠点とした自然体験活動の推進

(橋本委員)

- ・館岩少年自然の家では実施できていないが、代替施設で実施できているのか。また、以前にも改修工事が行われていたと記憶しているが、何故改修が必要となったのか。

(館岩少年自然の家所長)

- ・代替施設で実施できている。前回の改修は6年前に新館を建てたときのこと。今回は、旧館の改修を行っているところである。

(橋本委員)

- ・新館だけでやるのは難しいのか。

(館岩少年自然の家所長)

- ・新館は収容人数200人で、旧館が360人、両館を使わないと難しいところがある。

(平澤委員長)

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

- ・自然体験活動とあるが、具体的にはなにを実施しているのか。
(館岩少年自然の家所長)
 - ・実際に自然の教室を行うときに、登山、イワナをさばいて焼くことなど、南会津に行かないとできないことを行う。
- 2 (8) 「さいたま市小・中一貫教育」による教育の質の向上
(橋本委員)
- ・さいたま市小学校教科担任制の導入については、子どもたちが順応できるようにしてほしい。
- 2 (10) 子ども読書活動の推進
(平澤委員長)
- ・「としょ丸どくしょてちょう」とはどういうものか
(資料サービス課長)
 - ・本を読んだ記録をつけて感想等を書けるようになっている。さらに読書を推進できるように配布した。
- 2 (11) 児童生徒一人ひとりへきめ細かな支援を行うスクールアシスタントの配置
(平澤委員長)
- ・スクールアシスタントに資格はあるのか、どういった人がなっているのか。また人数は足りているのか。
(教職員人事課長)
 - ・資格に関しては、基本的には教員免許を求めているが、免許がない方でも可能。学校としては何人でも欲しい状況。学校規模に応じて配置しており、かつて教員をしていた人、地域の方などを配置している。
- その他
(平澤委員長)
- ・昨年度に比べて事業数も多く、事業を実施する教員、児童生徒に負担となっていないか。負担を減らしながらも、結果を出していけるよう検討してほしい。
(郡島委員)
 - ・効果検証のため、学校側からのフィードバックを求める際には、教育委員会に既にあるデータ等を活用して分析してほしい。学校に負担が無い形でフィードバックできるように検討してもらいたい。
- < 3 グローバル社会で活躍できる豊かな人間性と健やかな体の育成 >
- 3 (2) 国際バカロレアの教育によるグローバル人材の育成
(平澤委員長)
- ・海外研修プログラム実施後は、事実報告だけでなく、生徒が感じたこと学んだことを報告するような取組としてほしい。
- 3 (4) 一人ひとりの教育的ニーズに応じる特別支援教育の推進
(橋本委員)
- ・発達障害・情緒障害通級やひまわり特別支援学校高等部は開設したのか。

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(特別支援教育室長)

- ・岸町小、芝川小、美園南中に開設した。ひまわり特別支援学校高等部も順調にスタートした

(橋本委員)

- ・一人ひとりのニーズに合った対応を行うためには教員に負荷がかかっているのではないかと。教員を支援できる体制を整えるよう検討してほしい。

(平澤委員長)

- ・発達障害・情緒障害通級指導教室について、人材不足や教室の確保など課題があると思うが、今後ニーズの高まりも見込まれるため、引き続き実施できるようにしてほしい。

3 (9) 学校・家庭・地域が連携した食育の充実

(郡島委員)

- ・地元シェフによる学校給食の実施は希望校の31校とあるが、何故希望校だけなのか。

(健康教育課長)

- ・協力いただいている地元シェフの人数に限りがあり、毎年30校前後としている。

(平澤委員長)

- ・給食時間が短いという声がある。給食時間を延ばす時期を設けるなどの取組をとおして、給食に時間をかけるか他の活動に時間を割くか検証してほしい。

3 (11) 人権教育の推進

(郡島委員)

- ・学校トイレについて性的マイノリティ (LGBTQ) 等に配慮した対応をお願いしたい。

3 (12) 子どもたちの体力向上の推進

(平澤委員長)

- ・体力の向上とともに、ボールの投げ方や走り方など、体の動かし方を学ぶことも事業に取り入れてほしい。

3 (13) 小・中・高等学校の学びの連続性を意識した主権者教育の推進

(郡島委員)

- ・租税教室の実施について、インターネット上に情報があふれているからこそ、実際にあるSNSや動画サイト等の情報を交えながら、本当に正しい情報を児童生徒が取捨選択できるようにしてほしい。

その他

(平澤委員長)

- ・外国籍の児童生徒等に係る事業の記載がないが、重要事業として、教育行政方針への掲載を検討してほしい。

<5 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実>

5 (1) 学校と地域が連携・協働するコミュニティ・スクールの全校実施

(平澤委員長)

- ・学校地域連携コーディネーターはどのような方になっているのか。

(生涯学習振興課長)

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

- ・中学校は原則として再任用教職員で、校長経験者が多い。小学校は行政経験者や学校勤務経験者などの会計年度任用職員。

(橋本委員)

- ・コミュニティ・スクールの取組が始まったことにより、学校からの情報開示が増えたことを評価したい。学校と地域の更なる連携に期待している。

(郡島委員)

- ・地域において、コミュニティ・スクールと学校運営協議会の定義やSSN（スクールサポートネットワーク）との違いが分かりにくいと感じている方もいる。通知等において説明を加えるなど分かりやすくしてほしい。

5 (3) チャレンジスクールを通じた学びの輪・地域の輪づくりの充実

(郡島委員)

- ・チャレンジスクールが、1校だけ開催できなかった学校があるが、何か理由があったのか。

(生涯学習振興課長)

- ・各学校の実行委員会が判断したもの。新型コロナウイルスの感染状況の様子を見ていた結果、開催できなかった。

(橋本委員)

- ・チャレンジスクールにおける人材は、地域のネットワークの力で何とか確保しているが、人材不足は今後の課題である。人材については、教員を目指している学生など若い世代の参画にも期待したい。

その他

(平澤委員長)

- ・「5 スクール・コミュニティによる連携・協働の充実」は重要な事業である。学校の中でやるべきことが既に飽和状態である中、地域を巻き込んで子どもを育てていく必要がある。さらに、大学生のインターンシップの一環としてのボランティアなど、将来の担い手の種をまくという意味でも、さらに広まってほしい。

< 6 「未来を拓くさいたま教育」推進のための基盤整備 >

6 (1) 持続可能で質の高い教育環境整備の推進

(橋本委員)

- ・新設大和田地区小学校の周辺は通学区域が入り組んでいるため、新設にあたっては、隣接校も含めて通学区域を整理してほしい。

6 (2) 水泳学習の充実を図る民間委託化の推進

(郡島委員)

- ・学校のプールを市民プールとして開放するような取組も検討してほしい。

6 (3) 学校における働き方改革の推進

(橋本委員)

- ・育児休業後等、変化した学校教育に対応できずに退職する教員もいると聞く。休業後の復帰について研修等のサポート体制を整えるよう検討してほしい。

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(郡島委員)

- ・時間外在校時間の調査、どうやって実施したのか。自己申告か。客観的な事実をもって勤怠管理をするように求められているが、実際のところはどうか。

(教職員人事課長)

- ・出勤してパソコンを起動した際に顔認証システムによって時間管理をしている。

(郡島委員)

- ・教員がやらなければならない業務、それ以外の業務を整理してほしい。教員を増員し、業務分担をしっかりと行うとともに、時間外在校等時間の調査方法を検討しなければ、客観的な調査とならず、記録されない時間外勤務が増えるのではないか。

6 (5) 人づくり、人材確保の推進

(郡島委員)

- ・採用確保のためには、給与のベースアップを検討してほしい。

6 (6) 新しい時代にふさわしい部活動の在り方の推進

(橋本委員)

- ・部活動の指導者確保について、地域と連携して進めてほしい。働き方改革の視点からも重要な取組であると考ええる。

(郡島委員)

- ・部活動指導にやりがいを感じる教員もいるのではないか。部活動指導に係る手当を充実させることも検討してほしい。

6 (8) 実効的で持続的な学校安全体制の充実

(平澤委員長)

- ・危機管理対応マニュアル等に、熱中症対策について記載してほしい。

6 (10) 学校体育館への空調機設置の推進

(郡島委員)

- ・一部の学校で、剣道場や柔道場には空調設置が対象外と聞いた。避難所として使える武道場等にあってもいいのではないか。設置の検討はされているのか。

(学校施設整備課長)

- ・実際ついていない状況である。リフレッシュ工事において、学校全体の施設に改修・改築をしており、児童生徒がいるところには設置していきたいと考えている。

6 (11) 学校トイレの洋式化等の推進

(平澤委員長)

- ・学校トイレの改修は、LGBTQ の観点からも積極的に取り組んでほしい。

議題 (3) 今後のスケジュールについて

事務局より、本日から8月にかけて計3回の会議を開催し、9月定例会期間中に議会へ報告書を提出、その後、各区の情報公開コーナー、市の公式ホームページにて報告書を公開する旨説明をした。

【各委員】了承

令和5年度
第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

<閉 会> 16時30分閉会

【問合せ先】教育委員会事務局管理部教育政策室 829-1626

第1回さいたま市教育行政点検評価委員会 出席者名簿

1 さいたま市教育行政点検評価委員 (敬称略)

職	氏名	役職等
委員長	(ひらさわ なこ) 平澤 奈古	元さいたま市教育委員
委員	(はしもと まさはる) 橋本 正晴	青少年育成さいたま市民会議常任理事
委員	(ぐんしま のりゆき) 郡島 典幸	さいたま市PTA協議会会長

2 各施策についての点検・評価に関する出席者

	氏名	役職
1	田嶋 真二	管理部 学校施設整備課長
2	溝上 靖朗	〃 学校施設管理課長
3	菱沼 孝行	学校教育部 学事課長
4	高山 裕子	〃 参事(兼)教職員人事課長
5	藤田 昌一	〃 参事(兼)指導1課長
6	長谷場 明博	〃 参事(兼)特別支援教育室長
7	青木 貴	〃 指導2課長
8	津田 顕吾	〃 参事(兼)総合教育相談室長
9	神田 剛広	〃 参事(兼)高校教育課長
10	小山 敏明	〃 健康教育課長
11	深津 健太郎	〃 参事(兼)教育研究所長
12	新堀 栄	〃 参事(兼)舘岩少年自然の家所長
13	辰市 健太郎	生涯学習部 生涯学習振興課長
14	釜 浩美	〃 人権教育推進室長
15	中島 孝一	〃 資料サービス課長

3 事務局

	氏名	役職
1	丹 能成	管理部 参事
2	田中 修	管理部 参事(兼)教育政策室長
3	瀧山 聡美	〃 教育政策室副参事兼室長補佐
4	大橋 和彦	〃 教育政策室副参事
5	辛嶋 美香	〃 教育政策室 主査